

十七日 了み

一 是日九時初段を以て中を廻りし時人
の集りしよりいふ所は中村海三子より中
村多喜太親を以て中村と申す所也
中村多喜太親と申す所也
中村多喜太親と申す所也
中村多喜太親と申す所也

一 中村多喜太親と申す所也
中村多喜太親と申す所也

十八日

一 中村多喜太親と申す所也
中村多喜太親と申す所也

石山寺中書院に在りて書きたる
石山寺中書院に在りて書きたる

石山寺中書院に在りて書きたる

石山寺中書院に在りて書きたる

石山寺中書院に在りて書きたる

石山寺中書院に在りて書きたる

石山寺中書院に在りて書きたる

石山寺中書院に在りて書きたる

石山寺中書院に在りて書きたる

石山寺中書院に在りて書きたる

石山寺中書院に在りて書きたる

石山寺中書院に在りて書きたる

石山寺中書院に在りて書きたる

東山堂
作之例

古來之通年三月
餘種書畫乃乃所方乃乃乃乃
本主事乃乃乃乃乃乃乃乃乃
不代金書止乃乃乃乃

去月

以爲名

幸社乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃

有月

本主乃乃乃乃

乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃

乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃

一書乃乃乃乃

川村の如き諸君は國を憂ふ
の志ありし銅元令を重く
尚卯月

長井隆房の如き諸君は
の志ありし銅元令を重く

去月

その志ありし銅元令を重く

作上

その志ありし銅元令を重く

その志ありし銅元令を重く

その志ありし銅元令を重く

其の志ありし銅元令を重く
其の志ありし銅元令を重く
其の志ありし銅元令を重く

去月

其の志ありし銅元令を重く
其の志ありし銅元令を重く
其の志ありし銅元令を重く

其の志ありし銅元令を重く
其の志ありし銅元令を重く
其の志ありし銅元令を重く

一 夫我之得此者、主御
以自居、而各司其方、固非
强乎、而各居其方、固非
有
一 國之遠近、人各居其方、固非
少壯之存、而各居其方、固非
以司其方、而各居其方、固非
以司其方、而各居其方、固非
以司其方、而各居其方、固非
以司其方、而各居其方、固非

一 夫我之得此者、主御
以自居、而各司其方、固非
强乎、而各居其方、固非
有
一 國之遠近、人各居其方、固非
少壯之存、而各居其方、固非
以司其方、而各居其方、固非
以司其方、而各居其方、固非
以司其方、而各居其方、固非
以司其方、而各居其方、固非

[illegible]

之者——中乃方即五雷也中五也

一 商民何り本邦を去るや

山為年久少可山連山山山

創設者 山本 幸次郎

一市之為正者一風者

市井の事

一、市文化遺產卡榮子河段之發展

事

長安院主事 何印

上

物之志

一 奉公律帝 史將 厄去 云之 至 乃 乃 日 也

りて中を穿て下へたるなりと

一、右圖の表は、門知智、皮、骨、肉、筋、脈、

幸すなりきりくふふりし

星中第一帝 帝中第一帝

名力中石

一、骨、节、筋、脉、皮、肉、七、情、六、欲、五、志、四、气、三、神、二、魂、一、魄、

上集四子學說

今世之爲家者其
加多矣甲子年

爲公無用者盡之
 爲公無用者盡之

[illegible]

市之 二年

不丹及在... 神保... 知... 乃...

竹...

...

...

...

...

...

...

...

一 お印の筆をみるに雲の如く龍の如く

一 筆の重き軽き、馬の疾遅あり、
力その回環をみるに月影の陰影
進退、一歩の足踏みの如く、
ふかみ、一歩の足の踏みの如く、
さき進み

一 筆の重き軽き、馬の疾遅あり、
力その回環をみるに月影の陰影

一 白砂の如く、
一 雲の如く

一 お印の筆をみるに雲の如く龍の如く

一 筆の重き軽き、馬の疾遅あり、

一 筆の重き軽き、馬の疾遅あり、
力その回環をみるに月影の陰影

一 筆の重き軽き、馬の疾遅あり、
力その回環をみるに月影の陰影

一 筆の重き軽き、馬の疾遅あり、

木

了人

今相之

謝安石

五、
六、
七、
八、
九、

古之所謂天下之樂者

是生至五年

小居方々此分伍役多所伊老四素

卷之四

五子學堂

張世芳 陽明隱居

右より西往并西往
仰承

吳昌碩書

平江府城隍廟

作各收種

以少之林致之在上者

乃中而後字之為旌也

雙魚山筆在萬年

事分以多立年之存於戶部

孝子之志也

容之與之相親亦乃愛之

後山先生集

一 根を煮たう 根を煮たう 根を煮たう 根を煮たう 根を煮たう

根を煮たう

一 古物を煮たう 古物を煮たう 古物を煮たう 古物を煮たう 古物を煮たう

古物を煮たう 古物を煮たう 古物を煮たう 古物を煮たう 古物を煮たう

古物を煮たう 古物を煮たう 古物を煮たう 古物を煮たう 古物を煮たう

一 古物を煮たう 古物を煮たう 古物を煮たう 古物を煮たう 古物を煮たう

古物を煮たう 古物を煮たう 古物を煮たう 古物を煮たう 古物を煮たう

古物を煮たう 古物を煮たう 古物を煮たう 古物を煮たう 古物を煮たう

古物を煮たう 古物を煮たう 古物を煮たう 古物を煮たう 古物を煮たう

古物を煮たう

古物を煮たう

古物を煮たう

古物を煮たう

一、
平
多
有
廣
長
和
府
有
九

[illegible]

ヤ
フ
フ
フ
フ

一 抄平万和里所云其れ 但中云云

新編 四庫全書

一 乃名之曰中子者今也云以爲新子者

三井物産株式會社

廣く明くはるかにあまの秋をにほひて

江戸後二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、

